



平成24年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成23年10月31日

上場取引所 東

上場会社名 セーレン株式会社
 コード番号 3569 URL <http://www.seiren.com>
 代表者 (役職名) 代表取締役会長兼社長
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役執行役員 総務担当
 四半期報告書提出予定日 平成23年11月14日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(氏名) 川田 達男
 (氏名) 松村 重信
 配当支払開始予定日

TEL 0776-35-2111
 平成23年11月25日

(百万円未満切捨て)

1. 平成24年3月期第2四半期の連結業績(平成23年4月1日～平成23年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年3月期第2四半期	40,832	△5.0	1,407	△36.0	1,523	△38.8	911	△23.3
23年3月期第2四半期	42,967	17.0	2,198	—	2,490	110.7	1,188	30.0

(注) 包括利益 24年3月期第2四半期 865百万円 (59.2%) 23年3月期第2四半期 543百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
24年3月期第2四半期	15.22	—
23年3月期第2四半期	19.83	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
24年3月期第2四半期	86,189	46,139	53.0	761.92
23年3月期	86,206	45,590	52.3	752.63

(参考) 自己資本 24年3月期第2四半期 45,658百万円 23年3月期 45,101百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
23年3月期	—	5.00	—	5.00	10.00
24年3月期	—	5.00	—	—	—
24年3月期(予想)	—	—	—	5.00	10.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成24年3月期の連結業績予想(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	86,500	0.2	4,100	8.5	4,100	2.3	2,400	10.5	40.05

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

4. その他

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注)詳細は添付資料4ページ「2. サマリー情報(その他)に関する事項(2)四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

24年3月期2Q	64,633,646 株	23年3月期	64,633,646 株
----------	--------------	--------	--------------

② 期末自己株式数

24年3月期2Q	4,708,088 株	23年3月期	4,708,011 株
----------	-------------	--------	-------------

③ 期中平均株式数(四半期累計)

24年3月期2Q	59,925,591 株	23年3月期2Q	59,925,685 株
----------	--------------	----------	--------------

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想に関する事項等については、添付資料4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

【添付資料】

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	4
2. サマリー情報（その他）に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 継続企業の前提に関する注記	10
(5) セグメント情報等	10
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	10
(7) 重要な後発事象	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期における日本経済は、東日本大震災の影響から抜け出しつつあるものの、原材料・燃料価格の高止まりに加え、震災直後からの長期化する円高、さらには欧州財政不安や米国の景気低迷など、企業を取り巻く環境は不透明かつ厳しい状況が続いています。

当第2四半期における当社グループの業績は、東日本大震災による国内サプライチェーンの混乱が、主力のオートモーティブ事業に大きな影響を及ぼし、減収・減益となりました。しかしながら、早期復旧が完了したサプライチェーン全体は、震災の影響による減産を挽回するための増産体制に移行しており、当社グループのオートモーティブ事業についても、これに連動する動きになっています。また、他の事業においては、新商品の投入や徹底した工程合理化および経費削減を行い、業績は堅調に推移しました。

当社グループにおきましては「21世紀企業への変革！」を方針に、2008年度より「特命プロジェクト」を推進し、時代の変化を捉えた新事業の創出に取り組んでおります。さらに新規事業の展開やグローバル事業の拡大に向けた組織機能の再編および拡充、人材育成、関連会社の戦略転換など、次の展望に向けた企業体質の強化を進めております。

当第2四半期の連結業績は、売上高 408 億 32 百万円（前年同期比 5.0%減）、営業利益 14 億 7 百万円（同 36.0%減）、経常利益 15 億 23 百万円（同 38.8%減）、四半期純利益 9 億 11 百万円（同 23.3%減）となりました。

なお、KBセーレン(株)における負ののれん償却額の計上が前年第1四半期で終了し、営業外収益の負ののれん償却額は前年同期比で2億76百万円減少しております。

[セグメント別の業績概況]

(オートモーティブ事業)

国内事業の前半は、東日本大震災によるサプライチェーン寸断の影響を受け、自動車内装材の大幅な生産縮小を余儀なくされました。当初、最大の懸案事項であった復旧時期につきましては、サプライチェーンの早期復旧により想定よりも早い時期での生産回復となりました。しかしながら、当第2四半期の業績は、前半の生産縮小が大きく響き、売上高と利益ともに前年同期を下回りました。

海外事業の前半は新興国の経済成長による需要増加を受け、自動車内装材およびエアバッグとも堅調に推移しましたが、後半には東日本大震災の影響による生産縮小があり、当第2四半期では前年同期比で減収・減益となりました。

国内事業と海外事業を合わせた当事業の売上高は 177 億 38 百万円（前年同期比 13.7%減）、営業利益 5 億円（同 72.2%減）となりました。

復旧が完了したサプライチェーン全体は、上期の減産を挽回するための増産体制に移行しており、当社グループの国内および海外事業についても、これに連動する動きになっています。

(ハイファッション事業)

デフレや節約志向の定着に加え、震災後の消費マインドの落ち込みによる消費低迷が事業全般に影響を及ぼしました。そのようななか、ビスコテックスのファッション事業では、差別化商品と時代のニーズにマッチした小ロット・在庫レスの商品提供サービスで、前年の利益水準を維持しました。KBセーレン(株)の特殊原糸販売とともに、特殊原糸から縫製までのグループ一貫機能を活かしたスポーツ事業は、前年同期比で増収・増益となりました。一方で、戦略事業の早期展開を図るため、生産性を飛躍的に高める次世代ビスコテックスの開発ならびに海外での衣料一貫生産体制の構築に対する先行費用が発生しました。

当事業の売上高は 138 億 78 百万円（前年同期比 1.7%増）、営業利益は 4 億 33 百万円（同 33.0%減）となりました。

(エレクトロニクス事業)

電磁波シールド材「プラット®」については、ガasket材やPDP用繊維メッシュ商品が低価格品

の市場参入と円高の影響を受け、売上高は減少しました。フィルム・メッシュ商品については、歩留まり改善と生産効率アップにより営業損益は改善されましたが、家電業界におけるテレビ事業の採算性が問われるなか、今後の動向を注視することが必要です。一方で、KBセーレン(株)の高性能導電糸「ベルトロン®」は海外での売上高をさらに拡大しました。また、前期に事業を開始した非繊維ビスコテックスのシステム販売については、高い市場ニーズを受け順調に販売が進んでおり、当第2四半期において売上高1億99百万円を計上しております。

当事業の売上高は32億74百万円(前年同期比1.5%増)、営業利益は76百万円(前年同期は営業損失1億84百万円)となりました。

(インテリア・ハウジング事業)

住宅着工戸数は依然として低い水準に留まりましたが、東日本大震災の影響による特需を受け、ハウスラップ材が売上高を伸ばしました。市場ニーズにマッチした省エネ対応商品の遮熱型透湿ルーフィング材「ルーフ ラミテクト® RX」ならびに遮熱型ハウスラップ材「ラミテクト® サーモ」の拡販も進みました。同様に震災特需を受けたインテリア資材においても前年同期比で大幅な増収となりました。また、製造合理化による原価低減や、開発の選択と集中による経費削減で、事業全般における営業利益率を押し上げました。

当事業の売上高は29億9百万円(前年同期比9.9%増)、営業利益は2億92百万円(同179.1%増)となりました。

(メディカル事業)

化粧品事業は、新商品投入とネット販売の強化により震災直後の売上高減少をカバーし、前年同期比で増収・増益となりました。また、卓越した消臭機能を持つアンダーウェアシリーズ「DEOEST®」は夏向け新商品の投入で商品ラインナップを拡充し、売上高を伸ばしました。メディカル資材では、KBセーレン(株)の特殊伸縮性不織布「エспанシオーネ®」等、KBセーレン(株)の特殊原糸を用いた一貫製造商品は、引き続き堅調に売上高を伸ばしました。人工血管基材は客先の在庫調整に目処が付き、前年同期比で増収・増益となりました。

当事業の売上高は25億47百万円(前年同期比2.2%増)、営業利益は4億93百万円(同31.6%増)となりました。

(その他の事業)

いずれの事業も概ね堅調に推移し、事業全体で増収・増益となりました。

当事業の売上高は4億83百万円(前年同期比18.5%増)、営業利益は1億91百万円(同55.3%増)となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

当第2四半期末における総資産は、製品及び商品などの流動資産は増加しましたが、設備等の減価償却により有形固定資産が減少し、前期末と比較して全体で17百万円減少の861億89百万円となりました。負債の部は、支払手形及び買掛金の減少などにより5億67百万円減少し、400億49百万円となりました。純資産は、その他有価証券評価差額金の減少がありましたが、利益剰余金の増加などにより5億49百万円増加し、461億39百万円となりました。

キャッシュ・フローの状況につきましては、営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益15億35百万円、減価償却費24億85百万円などの資金増加要因があり、全体では12億79百万円の収入となりました。投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得などにより16億91百万円の支出となり、その結果、フリー・キャッシュ・フローは4億12百万円の減少となりました。財務活動によるキャッシュ・フローは、配当金の支払などにより2億36百万円の支出となりました。これらの結果、現金及び現金同等物は前期末より7億1百万円減少し、当第2四半期末残高は41億29百万円となりました。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

原材料・燃料価格の高止まりや、長期化する円高、さらには欧州財政不安や米国の景気低迷など、厳しい環境が続いています。

10月に発生したタイの洪水は、製造業のサプライチェーンの混乱を引き起こしています。幸い当社グループのサハセーレンに直接的な被害はありませんでしたが、今後の間接的な影響については、状況を注視していく必要があります。

通期の業績予想につきましては、平成 23 年 7 月 29 日に発表しました業績予想数値を据え置き、売上高 865 億円（前期比 0.2%増）、営業利益 41 億円（同 8.5%増）、経常利益 41 億円（同 2.3%増）、当期純利益 24 億円（同 10.5%増）とします。

2. サマリー情報（その他）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用の計算

税金費用については、当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成23年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,938	4,353
受取手形及び売掛金	19,234	19,099
商品及び製品	6,877	7,616
仕掛品	1,809	2,131
原材料及び貯蔵品	2,609	2,709
その他	1,988	2,377
貸倒引当金	△10	△14
流動資産合計	37,446	38,273
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	22,193	21,671
機械装置及び運搬具(純額)	10,216	9,508
工具、器具及び備品(純額)	372	363
土地	9,475	9,442
その他(純額)	376	1,003
有形固定資産合計	42,635	41,988
無形固定資産		
投資その他の資産	562	515
その他	5,609	5,465
貸倒引当金	△47	△52
投資その他の資産合計	5,562	5,412
固定資産合計	48,760	47,916
資産合計	86,206	86,189
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	11,962	11,500
短期借入金	5,623	6,080
未払法人税等	1,069	792
賞与引当金	986	974
その他	3,317	3,523
流動負債合計	22,960	22,871
固定負債		
長期借入金	10,928	10,565
役員退職慰労引当金	215	174
退職給付引当金	5,618	5,572
負ののれん	198	178
その他	694	687
固定負債合計	17,656	17,178
負債合計	40,616	40,049

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成23年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	17,520	17,520
資本剰余金	16,838	16,838
利益剰余金	17,569	18,182
自己株式	△3,928	△3,928
株主資本合計	47,999	48,612
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	181	60
為替換算調整勘定	△3,079	△3,014
その他の包括利益累計額合計	△2,897	△2,953
少数株主持分	488	481
純資産合計	45,590	46,139
負債純資産合計	86,206	86,189

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 四半期連結損益計算書
 第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
売上高	42,967	40,832
売上原価	33,578	31,811
売上総利益	9,389	9,020
販売費及び一般管理費	7,190	7,613
営業利益	2,198	1,407
営業外収益		
受取利息	40	55
受取配当金	26	32
負ののれん償却額	297	20
雇用調整助成金	93	87
その他	138	129
営業外収益合計	595	326
営業外費用		
支払利息	126	100
為替差損	162	80
その他	15	28
営業外費用合計	303	210
経常利益	2,490	1,523
特別利益		
固定資産売却益	25	23
助成金収入	200	—
受取和解金	—	15
その他	0	0
特別利益合計	225	38
特別損失		
固定資産処分損	26	12
投資有価証券評価損	262	—
その他の投資評価損	0	14
事業整理損	148	—
その他	70	0
特別損失合計	508	27
税金等調整前四半期純利益	2,207	1,535
法人税等	1,029	611
少数株主損益調整前四半期純利益	1,178	923
少数株主利益又は少数株主損失(△)	△9	11
四半期純利益	1,188	911

四半期連結包括利益計算書
第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	1,178	923
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△86	△121
為替換算調整勘定	△548	63
その他の包括利益合計	△635	△58
四半期包括利益	543	865
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	565	855
少数株主に係る四半期包括利益	△21	9

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	2,207	1,535
減価償却費	2,956	2,485
負ののれん償却額	△297	△20
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	1	9
賞与引当金の増減額 (△は減少)	35	△12
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	3	△45
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	△22	△40
受取利息及び受取配当金	△66	△88
支払利息	126	100
為替差損益 (△は益)	91	△6
事業整理損失	148	—
固定資産処分損益 (△は益)	0	△11
投資有価証券評価損益 (△は益)	262	—
売上債権の増減額 (△は増加)	△522	127
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△429	△1,171
仕入債務の増減額 (△は減少)	601	△398
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△91	14
その他	96	△103
小計	5,103	2,373
利息及び配当金の受取額	66	88
利息の支払額	△132	△104
法人税等の支払額	△405	△1,078
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,631	1,279
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△892	△1,591
有形固定資産の売却による収入	31	75
投資有価証券の取得による支出	△304	△13
その他	152	△162
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,012	△1,691
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△1,085	580
長期借入れによる収入	—	1,500
長期借入金の返済による支出	△1,706	△1,985
配当金の支払額	△299	△299
少数株主への配当金の支払額	△13	△15
その他	△16	△15
財務活動によるキャッシュ・フロー	△3,120	△236
現金及び現金同等物に係る換算差額	△105	△53
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	393	△701
現金及び現金同等物の期首残高	3,836	4,831
現金及び現金同等物の四半期末残高	4,229	4,129

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報等

【セグメント情報】

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

前第2四半期連結累計期間(自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)

(単位: 百万円)

	報告セグメント(注) 1						その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連 結損益計 算書計上 額(注) 3
	オートモ ーティブ	ハイファ ッション	エレクト ロニクス	インテリ ア・ハウ ジング	メディカ ル	計				
売上高										
外部顧客への 売上高	20,546	13,643	3,227	2,647	2,494	42,558	408	42,967	—	42,967
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	—	7	305	5	—	318	490	808	△808	—
計	20,546	13,651	3,532	2,652	2,494	42,877	898	43,775	△808	42,967
セグメント利益又は損 失(△)	1,803	646	△184	104	374	2,745	123	2,868	△669	2,198

当第2四半期連結累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)

(単位: 百万円)

	報告セグメント(注) 1						その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連 結損益計 算書計上 額(注) 3
	オートモ ーティブ	ハイファ ッション	エレクト ロニクス	インテリ ア・ハウ ジング	メディカ ル	計				
売上高										
外部顧客への 売上高	17,738	13,878	3,274	2,909	2,547	40,348	483	40,832	—	40,832
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	1	6	226	—	—	234	441	675	△675	—
計	17,739	13,885	3,501	2,909	2,547	40,583	925	41,508	△675	40,832
セグメント利益	500	433	76	292	493	1,796	191	1,987	△580	1,407

(注) 1. 各報告セグメント区分の主な製品等は下記のとおりであります。

- (1) オートモーティブ……………自動車内装材、カーシート、エアバッグ
- (2) ハイファッション……………各種衣料製品、衣料用繊維加工
- (3) エレクトロニクス……………電磁波シールド材、クリーンルームウェア、電子機器、工業用製品
- (4) インテリア・ハウジング…建築用資材、インテリア用資材
- (5) メディカル……………化粧品、浄水器及びフィルター、医療用製品

なお、「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ソフトウェアの開発及び販売、保険代理業を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額には、各報告セグメントに配分していない全社費用(前第2四半期連結累計期間668百万円、当第2四半期連結累計期間653百万円)が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない総務部門などの管理部門に係る費用であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

(7) 重要な後発事象

該当事項はありません。